キャラクター名
弓 響一郎

プレイヤー名

シンドローム	モルフェウス モルフェウス	ワークス	UGNエージェントB	カヴァー	バーの店長
オプショナル		年齢	44	性別	男性
覚醒	憤怒	衝動	殺戮	初期侵食率	35 %
出自	名家の生まれ	経験	出世	邂逅	平凡への憧れ

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	2	0	0			2
感覚	4	1	0			5
精神	0	0	1			1
社会	2	0	0			2

HP	25
行動値	11
(非装備時)	11
戦闘移動	16
全力移動	32

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	6		ＲＣ	2		交渉		
回避			知覚	1		意志			調達	1	
運転：			芸術：			知識：	1		情報 :UGN/コネ含む	4	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ﾊﾝﾄﾞﾚｯﾄﾞｶﾞﾝｽﾞ＋射撃	射撃	4r+6	9+2	15		装甲無視

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
コネ：UGN幹部	
携帯電話	
フォーマル	
バイク	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
親	P 尊敬	N 隔意		
上司	P 遺志	N 嫉妬		
地元の人々	P 庇護	N 不安		
街の人々	P 尽力	N 不安		
折敷□ 心温	P 庇護	N 不安		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6	残り財産P： 0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
コンセントレイト：モルフェウス	2	2	Ma	-	-	-		
効果： Crt-LV								
ハンドレッドガンズ	1	2	Mi	至近	自身	-		
効果： ATK：Lv+4/30mの射撃武器を作る								
ペネトレイト	1	3	Ma	武器	-	白/射		
効果： 装甲無視　判定D-1								
レインフォース	5	2	Ma	武器				
効果： ダメージ+LV*2								
サイコメトリー	1	2	Ma	-	-	情報		
効果： あらゆる情報判定に使用できる。判定ダイス+LV+2								
壁抜け	1							
効果： あらゆる壁を通り抜ける。必要であればRC								
万能器具	1							
効果： テレビや、工具、小さな家などを作れる。必要であればRC								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

「子供はねぇ外で遊ぶべきだし、大人はねぇそれを見守るべきだし、社会はねぇ人々を支えるべきだよ」
「そして私たちは人々を守るものでなくちゃいけない」
「でもたまには息抜きで酒を飲んで自分を慰める。わかる？」

気の抜けた顔で常に自然体でいる中年男性。
落ち着きを払っているのか気が抜けているのか掴めない人物である。

UGN支部を表向きダーツバーとして経営している理由は、彼が酒を呑みダーツに興じたいからというのは支部員たちの定説である。
店の経営者として活動はしても、ホールに関することは支部員に任せていることが多い。その間に酒を呑みダーツに興じる姿はしばしば見られるだろう。

実際の彼の仕事は外交面の方が多い。
そののらりくらりとした人との関わりは時として不真面目さを表現するかもしれないが、そこに優しさを感じるものも少なくない。

エージェントとしての彼はもっぱら調査員としての活動が主体であり、現場検証などではモルフェウスの力を遺憾なく発揮。敵の迎撃なども十分にできる単独行動力を高く評価されていた。

かつて彼の上司が亡くなった際にその役職を譲られたのが就任の発端で、すぐに別のものになるだろうと思っていたのにズルズルと続いて今に至っている。
次の人は是非ダーツで決めてくれと公言しているがまだ投げられそうにはない。

大人としてはチルドレン制度は非常に嫌っており、なんだったらUGNチルドレンという存在自体をあまり受け入れていない。
かと言ってよそで戦闘マシーンとして育てられるよりかは……という気持ちで支部に迎え入れている。それがUGNの方針と異なっているかどうかは特に気にしていない様子。